

## 2024年7月25日 所長・代表合同会見 所感

- 本日は私と新潟本社代表の橘田から、発電所の状況と県内でのコミュニケーション活動についてお伝えさせていただきます。
- はじめに、発電所における人身災害についてです。  
先週、プレスリリースでお知らせした通り、2件の人身災害が起きました。今年度に入ってから6件目となります。
- 地域の皆さまから安心・安全な発電所とさせていただくには、まずは発電所で働く全ての方々が、安心・安全に働ける職場であることが重要です。
- そのために、人身災害やヒューマンエラーなどが起こった際には、発生させた当該企業だけでなく、他の協力企業とも一緒に現場でのワイガヤ検討会を実施し、同様の災害を発生させないための議論を行っているところです。
- 昨日も、7月1日に3号機のタービン建屋で発生した転倒災害について、10社12名が現場に集まり、当社の保全部員4名とともに、私も参加しました。
- そこでは、転倒防止のために「床の清掃や整理整頓をしっかりと行う」、「靴裏が擦り減っていないかの確認を行う」、などといった意見が飛び交い、当社社員を含めた参加者それぞれが、災害を自分事として捉えて真剣に議論を行っていました。
- 議論内容は、協力企業を含めた発電所全体へ周知しており、こうした取組を通して、作業に関係する全ての人が、災害リスクへの感度を高め、安心・安全な発電所を創り上げてまいります。

- 新潟本社代表の橘田です。  
私からは、県民の皆さまから信頼いただけるよう取り組んでいる、コミュニケーション活動の状況についてお話をさせていただきます。
- 7月15日からは、新潟県主催で、国の新規制基準への適合性審査の結果や原子力災害対策、エネルギー政策に関する説明会が開催されております。
- 一方、我々としては、発電所の状況について、ご視察や訪問活動、コミュニケーションブースといった対面での説明に加え、広報誌やウェブ等の各種媒体を通じて、コミュニケーション活動に取り組んでいるところです。
- 発電所視察では、首長や議員、地元商工団体の皆さまをはじめ広く新潟県の皆さまに発電所をご視察いただき、「実際に発電所を見て、安全対策に対する理解が深まった」や「こういった状況を多くの人に伝えるべき」との声もいただいております。
- 一人でも多くの方に発電所をご視察いただきたいと考えておりますが、発電所までの距離や時間の問題もあり、ご覧いただくことが難しい方もいらっしゃることから、新潟県域でのコミュニケーションブースによる対面での説明を行っているところです。
- それでは、本日お配りした資料に基づき、コミュニケーションブースの概要や実績について説明いたします。
- 資料の右下1ページ目をご覧ください。  
2015年から新潟県内において、県民の皆さまが立ち寄りやすい商業施設のイベントスペースなどをお借りし、コミュニケーションブースを開催してきました。

○ ご来場いただいた県民の皆さまのご意見を傾聴し、発電所に対するご不安や疑問に丁寧にお答えするとともに、発電所の安全対策の状況や日本のエネルギー事情などについて説明しております。

また、こうしたご意見を適宜発電所にフィードバックし、広く新潟県の皆さまから信頼される発電所運営に努めているところです。

○ 2 ページ目では、開催実績を記載しております。

2015 年 10 月から、これまで新潟県内すべての自治体を対象（30 市町村、隣接市町村による同時開催含む）に開催し、累計 142 回、延べ約 3 万名の方にご来場いただいております。

ブースでいただいたご意見の一部については、後ほどご覧いただければと思います。

○ 続いて 3 ページ目をご覧ください。

先ほどもお話したとおり、本年 4 月以降、UPZ 圏内の自治体を中心に新潟県内でのブースの開催頻度を増やしており、これまで 10 回、延べ約 2,700 名の方にご来場いただきました。

○ 7 月 20 日、21 日には、田上町の「道の駅たがみ」で開催し、376 名の方にご来場いただき、「様々な安全対策をしていることがわかった」、「電力事情をあまり知らなかったなので、聞けて良かった」などの声をいただきました。

また、既にお知らせしている通り、今週末の 27 日、28 日には小千谷市で開催する予定です。

○ 加えて、皆さまのお手元にもお配りしているとおり、8 月には新潟市で、また UPZ 圏内の長岡市、上越市でもコミュニケーションブースを開催いたします。2024 年度上期中には UPZ, PAZ 圏内すべての市町村を対象に実施する予定です。

- これらのブースを通じて、まだまだ皆さまにお伝えしきれていない部分、例えば、
  - ✓ 原子力災害が発生し電源や冷却機能を失った場合でも、直ちに放射性物質を放出するわけではなく、代替循環冷却装置により10日間程度の時間的裕度を確保できること
  - ✓ デジタル化の進展に伴うデータセンターや半導体工場の新增設などにより、今後、電力需要の増加が予想され、エネルギーを巡る不確実性が高まっていることなどをしっかり対面でお伝えしたいと考えております。
  
- 私もご来場される県民の皆さまから直接お話を伺い、説明したいと考えております。  
本日、取材案内をお配りしておりますが、メディアの皆さまには、こうしたコミュニケーションブースの取組を、ご取材いただければと思います。
  
- 今後も、こうしたコミュニケーション活動を継続して、広く県民の皆さまから信頼いただけるよう、丁寧に説明してまいります。
  
- 私からは以上です。

- 引き続き、私からは柏崎・刈羽地域の皆さまへの説明についてご紹介いたします。
- まず、商工会議所や商工会への会員企業訪問については、7月22日から開始し、2カ月程度かけて、約1,700社へ訪問する予定です。

この訪問も6回目となり、回を重ねるごとに再稼働に向けたご期待への声も増えてきております。

そのご期待の声をしっかりと受け止めるべく、今回は、私自身も何社か訪問させていただきたいと考えております。
- 次に、コミュニケーションブースについては、7月20日と21日に開催したサービスホールイベントに合わせて設置をし、合計433名の方に来ていただきました。
- コミュニケーションブースでは、発電所の目指す姿をはじめとする取組を丁寧にご説明するとともに、地域の皆さまからのご不安の声や疑問にお答えしました。
- ご来場いただいた皆さまからは、
  - ・地域に根差して頑張ってほしい
  - ・地震や津波には不安を感じざるを得ないが、今日の説明を聞いて、しっかり対策されていることが分かったといった声をいただきました。
- 地域の皆さまの期待に応えるためにも、安全に終わりではなく、常に改善を続けていかなければならないと、あらためて心に誓いました。
- サービスホールイベントでは、発電所バスツアーも開催し、125名の方に実際の発電所の様子もご覧いただきました。

バスツアーは、7月28日から9月1日までの毎週土日と、お盆期間に開催予定で、一人でも多くの地域の皆さまに発電所をご覧いただければと考えております。

- また、明後日 27 日には、刈羽村にある当社のふれあい施設「きなせ」でコミュニケーションブースを開催する予定です。  
私も説明者の一人として参加し、直接地域の皆さまのご疑問にお答えするとともに、地域の皆さまの声を発電所運営に活かしてまいります。
- なお、きなせでのコミュニケーションブースの前には、みなとまち海浜公園で「ぎおん柏崎祭り海の大花火（おおはなび）」大会後の清掃活動にも参加する予定です。
- お手元には、刈羽村と出雲崎町で開催するコミュニケーションブースの案内をお配りしておりますが、今後も地域の皆さまからご信頼いただけるよう、丁寧に説明をしてまいりたいと考えております。
- 私からは以上です。